

● 使用材料・使用器具

使用材料

キクスイ 15kg/缶
 プライマースーパーE
 グラナダ弾性 20kg/缶
 専用骨材3厘 20kg/紙袋
 塗料用シンナー

使用器具

計量 秤
 下塗り エアレススプレー等
 基層塗り リシンガン
 模様塗り スタッコガン
 模様付け プリーツローラー (リブ幅5mm)

● 標準施工仕様

(23℃、50%RH)

工程	使用材料		調合 (重量比)	所要量 (kg/㎡)	塗り 回数	工程間隔時間(hr)		備考
						工程内	工程間	
下塗り	キクスイ プライマースーパーE		15kg 無希釈	0.1～0.19	1		3以上	エアレススプレー等
基層塗り	グラナダ弾性		20kg	0.8～1.0	1	－	6以上	リシンガン 口径：4～6mm 吹圧：0.5～0.6MPa
	清水	吹付け塗り	1～2kg					
		コテ塗り	0～0.5kg					
模様塗り	グラナダ弾性		20kg	2.5～3.0	1	－		スタッコガン 口径：8～10mm 吹圧：0.4～0.6MPa
	専用骨材3厘		10kg					
	清水		0～0.5kg					
パターン 付け	凹凸状吹放し後、塗シンを付けたプリーツローラーを横方向に重ねながら転がし、ランダムにひだ状意匠付けをする。						追っかけ 模様付け	プリーツローラー
養生撤去	養生シートなどの撤去を行う。					－	直後又は 乾燥後	
最終養生	施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。					－	24以上	

● 標準施工要領

1. 下塗り

- ①下塗材は、下地の状況に合わせて、適切な下塗材を選定する。
- ②下塗りは、下地の吸い込みとそのばらつきを防ぐため、だれ、塗に残しのないように均一に塗り付ける。コーナー部など入隅、出隅は特に入念に塗付する。

2. 基層塗り

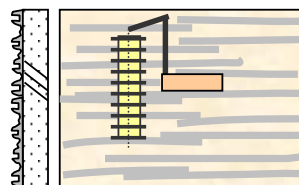
- ①開缶後缶壁に付着した主材を缶内に落とし、一度均一にまぜる。
- ②主材に、指定量内の清水を加えハンドミキサーなどで均一に混合し、定められた模様になるように粘度を調整する。計量は秤などを使用する。
- ③基層塗りは、下地がスケないようにリシンガンで吹き付けるか、又はコテなどを使用し塗り付ける。

3. 模様塗り

- ①出隅、入隅、開口部廻などは25mm幅の装飾養生をする。また、大面積連続壁の、特に妻壁は各階などで、また長スパン壁は適度なスパンで装飾養生を取るようにする。
- ②主材は、定められた模様になるように指定された骨材・清水を加え、ハンドミキサーなどで均一に混合する。なお、材料の計量は秤を使用し、希釈水量はあらかじめ試し塗りして決める。
- ③模様塗りは仕様にあった施工用具を使用し、指定された所要量を凹凸吹き放しで吹き付ける。

4. パターン付け

- ①パターン付けは、模様塗りと並行して追っかけで行う。凹凸状吹放し後、プリーツローラーに塗シンを付けて横方向に重ねながら転がし、ランダムにひだ状意匠付けをする。
- ②プリーツローラーの転がし間隔、重ね程度、ランダムさなどにより仕上がり感が異なるため、見本板などであらかじめ確認を行っておく。
- ③表面皮張りが早い場合、直射日光など避けて施工する。
- ④模様塗り・パターン付けは上部から下部に向け施工して行く。
- ⑤標準意匠は、凹凸吹き放し部分が多少残る以外は、全て密にひだが重なりあった意匠。
- ⑥ひだの跡は、ラフにランダムに付けていくようにする。
- ⑦パターンは、壁全体のバランスも考慮して整える。



5. 養生撤去他

- ①養生の撤去は、施工終了後直ちに行う。すぐにできない場合は、材料が完全に乾燥した後、慎重に行うこととする。なお、水切部などにバリの出ている場合は、カッターナイフで取るようにする。
- ②施工後、降雨の恐れのある場合は適切な保護養生をする。
- ③足場つなぎ部のタッチアップ補修を行う。